

2022年12月13日

黒部川扇状地研究所×立山黒部ジオパーク 講演会

富山県総合福祉会館「サンシップとやま」においてドイツのベルリン自由大学名誉教授ヘルマン・クロイツマン先生より、ドイツのジオパークや、活動の現状についてお話ししていただきました。たくさんの参加者があり、興味深いお話を聞くことができました。



<演題>

Geoparks-Global geo-ecological heritage brought to people's attention

—人々の注目を招く世界的なジオ生態学的遺産—

ドイツのジオパークはもともとは「環境保全」を訴える民族運動からスタートした。最初は地域のとても小さな運動だったが、全国に拡大していった。途中でユネスコに参加することで地域の発展のカギとなった。

ジオパークの活動はもともとSDGsとつながりが深く、ユネスコの掲げる2030年までの持続可能な開発の17の目標もジオパークで解決できると考えている。

ドイツのジオパークの大きな目標は自然と人間の共生と持続可能な未来のための開発を実現することであり、学校、博物館、大学、研究者等が協力して大きな社会問題に取り組んでいる。

ドイツには8か所の世界ユネスコジオパークと10か所のジオパークがある。国内のジオパークのネットワークはジオユーゲンという組織となっている。

例えば、ドイツの「ネルトリンガー・リース」はバイエルン州西部にある直径約24kmの円形の盆地である。リース・クレーター(Ries crater)とも呼ばれる。クレーターの中心から南西6kmの場所にネルトリンゲンの街がある。2022年に一帯がユネスコ世界ジオパークに登録されている。

隕石が衝突してできたクレーター内の城壁で囲まれた昔の街並みが観光スポットとなっている。生きている博物館とも言われ、1万年前から現在までの変化

を勉強することができる。地質の歴史だけでなく、ローマ帝国時代の歴史や人間・自然・生物など好きなテーマを選んで研究を進めることもできる。

ジオパークのすばらしさを解説するガイドは地元の学生や教員、研究者などが行っており、リースがどんな所か何があるのかを知らなく訪れても、リースという名前で観光客を誘致して人間と自然と地質のつながりの理解を深めてもらうことができる。

ジオパークを支える団体は法人化され、ボランティアで活動を行っている。運営費は市や郡から一部支払われているが、観光面でホテルや商店など、地元への経済的なリターンも多い等バランスがとれている。

このように、ドイツではジオパークの自然環境を守りながら教育やツーリズムの場とすることによって地域振興を進めている。自分のまわりの自然や文化、その価値を守りたいと思っている人たちが中心になって行っている民族運動がジオパークの礎となっている。



黒部川扇状地研究所 水嶋一雄所長

*世界のジオパークより

<ネルトリンガーリース> <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8D%E3%83%AB%E3%83%88%E3%83%AA%E3%83%B3%E3%82%AC%E3%83%BC%E3%83%BB%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%82%B9>